

5イチ推し！静岡発掘

東西に長い静岡県では、各地で様々な出土品が見られます。ここでは、時代・地域を問わず、珍しいもの、面白い形をした出土品を集めました。

その出土品には、それぞれ時代にそれぞれの思いが込められ、制作されています。その全ての制作背景を明らかにすることは困難ですが、様々な想像を巡らすことは歴史のロマンでもあります。

静岡県埋蔵文化財センター

静岡県は、国や県が行う公共工事に関連する遺跡の発掘調査を行うため、昭和 59 年 (1984) に財団法人静岡県埋蔵文化財調査研究所を設立し、平成 23 年 (2011) 4 月には、その機能を引き継ぐ形で静岡県埋蔵文化財センターを設置しました。

国民共有の財産である埋蔵文化財の保護【守る】、地域固有の文化に対する誇りと愛着の醸成【育てる】、文化財の価値の未来への継承【つなげる】の実現をめざし、日々、埋蔵文化財の調査研究、活用、修復・保管に取り組んでいます。



静岡県埋蔵文化財センター

石製装飾品（レプリカ） 富士石遺跡（長泉町）

扁平な縦長五角形状の石に穿孔や線刻を施した装飾品です。側面に 14 条の線刻が施されています。

旧石器時代の装飾品はシベリアや中国北部といったユーラシア大陸北方での発見例が多いとされ、日本国内では北海道と岩手県からの出土が報告されているのみであり、希少性が非常に高いものです。

イノシシ形突起 おんだ
押出シ遺跡 (三島市)

縄文土器の縁に装飾として付けた突起です。粘土の成形によって体とタテガミを作り出し、ヘラ描きで目、鼻、体の縞を表現しています。縄文土器の突起には、イノシシの他、人面やヘビ、カエルなどが表現されるものが多くみられます。

弥生土器・多口壺 ながさき
長崎遺跡（静岡市）

肩部に 6 個の小壺を貼り付けた特異な形態の壺です。小壺を取り除けば、静清地域に普遍的に見られる壺と変わりません。外面全体にやや粗いミガキ調整を施し、文様は施さず、わずかに赤色顔料が確認されることから、本来は、赤色に彩られた土器であったと推測されます。

かんじょうへい しのんば

環状瓶 篠場瓦窯跡（浜松市）

部分的に欠損するものの、ほぼ完形の状態に復元されました。静岡県内における環状瓶の初の出土です。体部はドーナツ状の形態で、断面は四角形です。体部の正面・裏面・側面には、櫛描き波状文を2列施しています。底部には、橢円形のやや高い高台が貼り付けられています。

じゅうそくつきたんけいこ いどおり

獣足付短頸壺 井通遺跡（浜松市）

大溝から出土しました。短頸壺に獣足を 3 個体付しています。獣足はやや長脚化しており、端部は 5 本指になるように切り込みが施されています。短頸壺本体は広い底部をもつ丸底であり、肩部中位に沈線が 2 条施されています。

し しがしら つるはみまえだ
獅子頭 鶴喰前田遺跡（三島市）

頭部と上顎部分が一体となって成形されていますが、顔面と鼻部は深く刻むことにより鼻部を強調しています。内部は方形にやや粗く刳り込まれています。頭頂部は表面が欠損していますが、たてがみを取り付けたと考えられる孔が 6 箇所認められ、そのいずれにも木釘が遺存しています。